

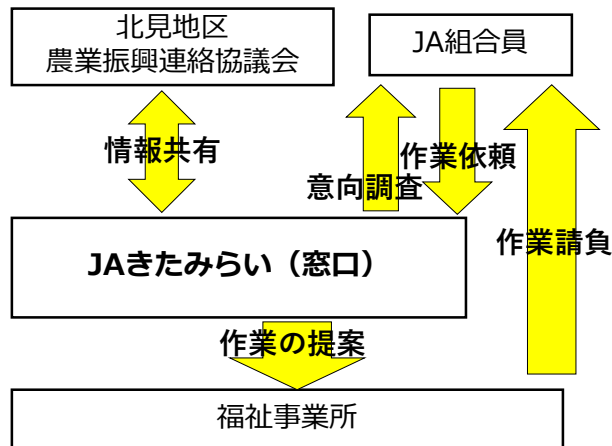
JAきたみらいにおける農福連携の推進体制 ～JA主導によるマッチングの取組～

◎取組の経緯（きっかけ）

平成29年に農業労働力（担い手）確保の一環として「農福連携」の実施を検討及び先進事例等の調査を開始した。

平成30年に、行政をはじめとする関係機関とJAで構成される北見地区農業振興連絡協議会にて農福連携作業部会を設置し、農福連携に係る情報共有を図っている。

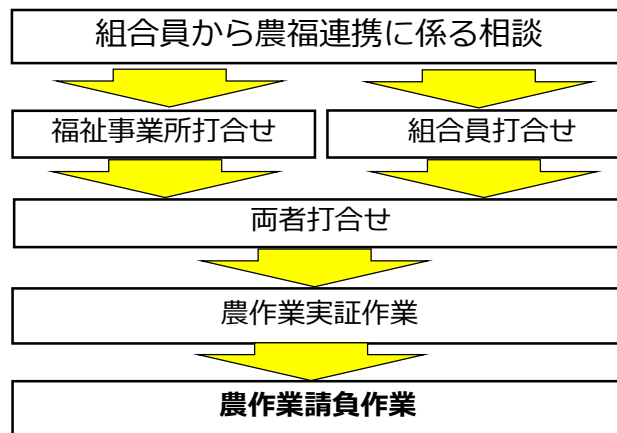
JAきたみらいでの農福連携マッチング相談体制



◎取組内容

- ◆ 組合員に意向調査を実施し、農福連携のニーズを把握。
- ◆ 福祉事業所と農業関係機関、組合員（マッチング農家）との意見交換を実施。
- ◆ 組合員からの農福連携の相談に対してJAが窓口となり、組合員と福祉事業所のマッチング及び打合せ・農作業実証作業のセッティングを行う。

JAきたみらいで行っている農福連携 マッチングの流れ



地域の概略

○位置



- 農業データ
経営形態
玉ねぎ、
ばれいしょ、
麦類、
てん菜等
- 福祉データ
A型福祉事業所
10か所
(北見市10)
B型福祉事業所
27か所
(北見市26、訓子府町1)
※令和4年12月31日現在

◎成果と課題 □：成果、■：課題

- 令和元年から令和4年で9種類の作業を実施
(作業内容：玉ねぎ(真白・サラタマ)の収穫関連、玉ねぎの移植関連、大根の出荷関連、大型コンテナの組立て、にんにく播種関連、にんにく収穫関連、出荷用段ボールの製函、ホウレン草収穫関連、ペコロス収穫関連)
- マッチングした組合員から「熱心に作業してくれる」との声が挙がっている
- 習熟度とともに作業スピードが向上
- 作業時期の重複による組合員と福祉事業所の日程調整
- 新たな農福連携取組作業の検討
- 組合員への認知度向上と理解促進



玉ねぎの収穫関連作業（茎葉根処理）の様子